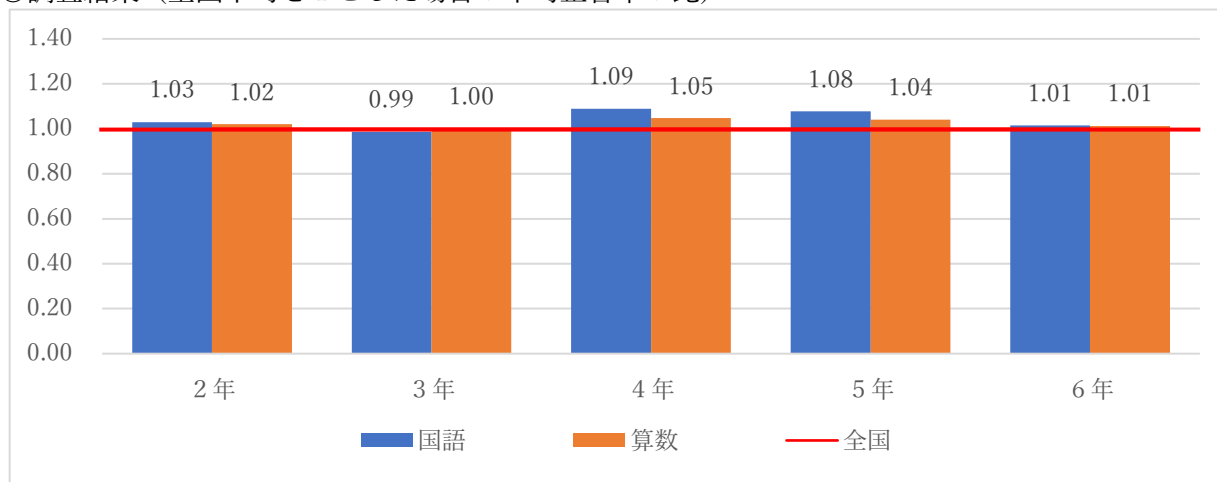


# 令和5年度 全国学力・学習状況調査及び学習到達度調査について

第四中学校区 梅が丘小学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※小学2～5年生は学習到達度調査、小学6年生は全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

学習到達度調査	国語	ほぼ全ての領域で全国平均を上回る結果であったが、「文章を読んで感じたことやわかったことを共有する」「指定された長さで文章を書く」等に課題が見られる学年があった。引き続き、児童が伝えたい内容を整理して書く学習活動を充実させていく。
	算数	ほぼ全ての領域で全国平均を上回る結果であったが、「文章問題を解くために立式し正しい答えを求める」「目的に合う理由を説明する」等に課題が見られる学年があった。引き続き、自分の考えを整理して説明できる力等を養う学習活動を充実させていく。
全国学力・学習状況調査	国語	ほぼ全ての領域で全国平均を上回る結果であったが、「原因と結果など情報と情報との関係について理解する力」等の問題に課題が見られた。引き続き、情報を理解して整理し、自分の考えを的確に述べる力等を養う学習活動を充実させていく。
	算数	ほぼ全ての領域で全国平均を上回る結果であったが、「百分率で表された割合について理解する力」等の問題に課題が見られた。引き続き、日常の事象を数理的に捉え解決する学習活動を充実させていく。
	質問紙	「授業中にタブレット等のICT機器をどの程度使っていますか」の問い「週3回以上」と回答した割合や、「学校に行くのは楽しいですか」「友達関係に満足していますか」の問い肯定的に回答した割合が全国平均よりも高い数値であった。引き続き、ICTを活用する力を推進するとともに、子どもにとって居心地の良い学校作りをめざす。

○学力向上の取組

## 【中学校区】

以下の取組を通して、9年間の段差のない、絶え間ない学力向上をめざす。

- ・全国学力テスト・到達度テストの結果を持ち寄り、共通の課題を見つけ、校区学力部会で改善策を検討する。「自主学習ノート」の取組も校区として継続し、改善・検討する。
- ・各部会で課題を出し合い、小中合同で研究授業や授業公開を行い、指導改善につなげる。
- ・少人数・専科・統合・小中連携教科指導加配教員や数学科教員との交流をすすめて、算数・数学の授業改善を図る。
- ・ディベートを含め、各教科9年間を見通したカリキュラムの作成・点検・改善を行う。

## 【学校】

- ・ディベート教育を通じて、論理的思考や問題解決能力、情報選択能力等を養うとともに、考える力をベースに寝屋川方式の学習法を通して学力・体力等を確実に身に付けさせる。さらに、ディベートを各教科に横断的に取り入れ、話し合いや発表の場を取り入れた授業を設定する。
- ・「考える力」の育成をより進めるとともに、「思考スキル」を手段とした「考える力」の可視化を図る。
- ・「自主学習ノート」の取組により、家庭における学習習慣の構築を図る。
- ・MIMデジタル（web版）の活用により、子どもたちの読みの流暢性における指導の充実を図る。